

# 雑報

## 宇電懇シンポジウム「大型宇宙電波望遠鏡による観測」

昭和56年度の「通称」宇電懇シンポジウムは上記のテーマにより赤羽総研(A)の御援助により昨年12月17日~19日に新装なった野辺山宇宙電波観測所(以下NROと略称)本館において行われた。参加者は約70名であった。今回は45mφ望遠鏡を中心とした大型宇宙電波観測装置に対して「模範」観測プロポーザルを募り、それらの学問的、技術的問題点を明確にして、本番の観測を行っていく場合の手引きとするとともに特定観測テーマや周波数領域への集中度や観測時間数等の点から、共同利用体制の議論の上での基礎資料を提供する、といったものであった。寄せられた仮プロポーザルは何と110件以上に達し、宇宙電波観測への期待の大きさが感じられた。シンポジウム初日はURSI・J分科会として各地の電波観測設備の現状報告が行われた。特にNROについては具体的な運用開始のスケジュールが公表された。2日目からはNROにおける観測計画の説明のあと、寄せられた仮プロポーザルを基にユーザー側、観測所側から学問的技術的観点からレビューが行われた。とにかく現段階では実際の宇宙電波観測のイヤラン

サを知らない人達が大部分であるため、観測計画の組み方が相当オプティミスティックになっていたのも止むを得ないところであろう。次いで共同利用体制の議論に入ったが、一番問題となったのは仮プロポーザルからも分るよういわずの人気天体(一番人気はオリオン分子雲)に、似たような観測プロポーザルが集中した場合、共同利用体制としてどのように考えるか、であった。このことは装置の共同利用だけでなく「天体の共同利用」といった観点からの新しい共同利用体制を考える必要のあることを示している。例えば事前に特定天体もしくはテーマに関する小シンポジウムのようなものを開き、観測テーマの調整や共同研究の体制を作ることが限られたマシントimeを有効に使う上で重要であることが指摘された。

その他「見学」においては主催者の思惑と違って大変な好天気のもとに快適に行われNROスタッフの苦勞の程を忍ぶことが出来なかったのは甚だ残念であったが、いづれそれは本番になれば身にしみてわかることである。シンポジウム最大のイベント「懇親会」は近来見られなかった盛りを見せたことは(私自身にも多少の責任はあるようだが)まことに喜ばしいことであった。なお集録No.1仮プロポーザル集は残部が御座居ますので御希望の方は御一報下さい。No.2は「近日中」に出版の予定です(空しい言葉だナァ)。 (渡辺 堯)

わが国唯一の天体観測雑誌

# 天文ガイド

定価380円(〒70円) '82-5月号・4月5日発売!

### 5月号のおもな内容

- ★全天第一の明るい恒星シリウスのそばに、X線を出す新星が見つかりましたが、これはアマチュアの望遠鏡でも撮影できることがわかりました。古畑正秋さんが観測ガイド、撮影法を紹介。
- ★大野裕明さんの星雲・星団ガイド、今回は春の星空。
- ★パロマ山の5m反射望遠鏡ができて半世紀、最近また超大型望遠鏡建設が検討され始めました。今度は1枚の鏡ではなく、多数の小鏡を並べて大口径にします。このテスト研磨の模様を野口猛さんから。
- ★インドネシア日食現地報告3回目、今回はツバーン市。
- ★天体写真にむくレンズテスト、各社の135%望遠……



ウイニフ・ヴァン・ニール  
近現代天文学の夜明け

# 近代天文学の 夜明け

● 天王星が発見されて200年。その発見者ハーシエルの、知られざる人柄・業績などを、貴重な資料をもとに描く力作。  
● 齊田博著 / 定価1100円

誠文堂新光社 東京都千代田区神田錦町1-5  
振替東京6294 電話03(292)1221